

青少年だより かけ橋

平成30年度 第6号 <9月発行>

音更町教育委員会

薬物乱用は ダメ！ゼツタイ！

～『一回だけなら平気だよ』『すっきりするよ』『みんなやってるよ』…こんな誘い文句は危険！～

薬物乱用とは、社会のルールからはずれた方法や目的で薬物を使うことです。覚せい剤や大麻などの違法薬物は、たとえ1回使用しただけでも乱用にあたり、同時に“犯罪”です。

＝なぜ、薬物乱用はいけないの？＝

- 幻覚、幻聴、妄想、錯乱などの精神障がいが生じます。
- 「一度だけ」という好奇心や遊びのつもりでも、薬物の強い“依存性”と“耐性”のために使用量や回数がどんどん増えていきます。
- 肝臓や腎臓など臓器の働きに深刻な悪影響を及ぼす可能性があります。また、脳出血や心不全などで死亡することもあります。



＝一度でも一生つきまとう薬物！＝

最近、合法ハーブ、アロマ、お香等と称して販売される薬物（危険ドラッグ）を吸引して、意識障害やおう吐、けいれん、錯乱などを起こし、救急搬送された事例や死亡事故・事件も全国各地で発生しています。危険ドラッグは繁華街やインターネットなどで「合法」であると偽って販売されています。覚せい剤や麻薬などの規制薬物よりも危険な物質が含まれていることもあり、大変危険な薬物です。

また、道内では広範囲に大麻が自生しており、乱用目的に採集する人がいます。青少年に「大麻ぐらいなら・・・」などと思わせないためにも、しっかりと薬物の恐ろしさを教えることが大切です。

§子どもを薬物乱用から守るために薬物に手を出させないための8カ条§

- ① 子どもの思春期特有の心と体の変化について理解しましょう。
- ② 毎日の親子の会話とコミュニケーションを大切にしましょう。
- ③ 子どもの話には常に耳を傾けましょう。
- ④ 友情をつちかい、仲間からの悪い誘いを拒否できる勇気を育てましょう。
- ⑤ 子どもが家族や学校の先生にいつでも相談できるようにしておきましょう。
- ⑥ 子ども自身で健全な判断ができるように育てましょう。
- ⑦ 学校や地域社会との関係を大切にしましょう。
- ⑧ 子どもの様子がおかしいと気になったらすぐに専門機関に相談しましょう。

子どもの健やかな成長には“長い見守りが必要”

主任児童委員（音更町民生児童委員協議会） 金澤 純子 氏

ここ10年の間、子どもを取り巻く環境がずいぶん変わりました。核家族化や少子化などから親子以外に他とのつながりが少ないため、お母さん方は子育てに苦労しています。そんな中でも、身近な子どもたちとのかかわりを大切にしながら、つながりの輪を少しずつ広げていきたいですね。近所の子どもたちは元気にあいさつをしてくれます。こちらからも声をかけるようにしています。子どもは地域の宝ですから、お互いの気持ちの通い合いを大切にできればと思っています。

民生児童委員の主な活動について

町内には99人の民生・児童委員がいます。その内5人が主任児童委員として、中学校区ごとに子どものことを専門に活動しています。0歳から18歳までが対象になりますが、子どもたちの健やかな成長を願いながら、主に育児や教育などに関して相談を受けたりします。具体的には、育児やしつけ、いじめ・不登校、非行などの問題が解決できるよう、相談される方といっしょに地域の人や関係機関とも連携しながら取り組んでいます。

活動を通して感じていること

地域の人や学校、関係機関などからの声をしっかり受け止めながら、また、相談される方の願いや思いを大事にしながら活動していかなければと考えています。特に、子どもの健やかな成長には、長い見守りが必要です。相談される方々とは、10年単位ぐらいになるかもしれませんが、細く長くつながっていかれたらと思っています。



<主任民生児童委員の紹介>

音更中学校区担当 金澤 純子 (42-5057)	共栄中学校区担当 佐々木祥子 (31-8215)
下音更中学校区担当 似内 幸成 (31-2773)	緑南中学校区担当 村瀬 聡美 (30-2370)
駒場中学校区担当 池田啓一郎 (44-2262)	(敬称略)

※主任児童委員には守秘義務があります。安心して学校区担当の委員にご相談ください。

子どもたちの健やかな成長を願って活動する主任児童委員の仕事や思いを、音更町民生委員・主任児童委員の金澤純子さんにご紹介いただきました。

不審者情報・青少年の悩みごとは 青少年係へ
電話・FAX 0155-42-5855 (生涯学習センター)